

## ビラ ー ン 通 信 12号

1998. 6. 10



簡易水道建設に協力をした地元の民井さんとサムラングの子供たち、ノノイ神父

### ∞ サムラング短信 ∞

CMB プロジェクト・ディレクター・ノノイ神父

- \* — 救援米 10kg 支給 — 政府に早魃飢饉に対する援助を要請していたところ、サムラングでも一帯あたり 10kg の米が支給されました。選挙前の約束では、25kg でしたが、10kg でもさしあたり 2-3 週間、飢えはしのぐことができます。(5/23)
- \* — 養殖池のティラピア 100kg (200 円 /kg) 水揚げ — klawil Gutnga(ライフセンター、クリニック)運営費捻出用のティラピア養殖ですが、売上金 2 万円で米 6 袋 (300kg) を買って住民に配布したと、サムラングのプロジェクト責任者ラウロが報告してきました。すでに鶏や豚を売り尽くし、食料探しにコミュニティを去るものが出始めた状況ではやむを得ません。伝染病発生がなかったのがせめてもの救いです。(5/13)  
(この緊急援助に関連して、HANDS がサムラング多目的互助組合用に送金した 1000 ドルの一部を、子どもたちへの食糧補給に使用した。事前に了解を得なくてすまなかったとの FAX も事務局に届きました。(5/3))
- \* — 待望の雨が降りました — 大地が少しずつよみがえり始めました。本格的な雨を待つてすぐ播種できるよう、住民たちは種まきの準備をはじめました。伝統的共同作業システム「bayanihan バヤニハン」により相互に作業を手伝います。多目的互助組合のメンバー 30 家族にまず 20 袋の高品質種子を配布しました。政府もまた、住民への種子配布を約束しています。約束だけに終わらぬことを願っています。(5/23)

### ∞ サムラング将来展望 ∞

サムラングに応急手当程度ができるクリニックを設立してまもなく 2 年になります。幼い子どもたちが簡単に命を落とす状況を何とかしたい、との住民の願いを受けてはじめた HANDS の活動ですが、ピラ ー ン 族 支 援 の 経 験 が 長 い CMB の 助 言 に よ り、ク リ ニ ッ ク は 単 なる 医 療 施 設 で なく、医療、教育、経済的自立の拠点、ライフセンター(ピラ ー ン 語 で Klawil Gutnga)と名づけられました。それ以後、

簡易水道の完成、ウェポンキャリアーの購入、モデル農場での野菜栽培、アヒル・豚飼育、ティラピア養殖、小学校開設など、住民の努力と会員の皆様のご協力により、一歩ずつ自立に向かって進んでいます。治安悪化や早魃などで時折その歩みを止めますが、

私たちのサムラング支援の終了は

- ① 現地政府の先住民族コミュニティに対する資金に裏付けされた政策の実施
- ② モデル農場の生産が軌道に乗り、センターの運営資金をまかない、住民への農畜産技術指導センターとしての役割を果たすこと。
- ③ 住民が、伝統的互助精神と近代的組合運営方法をうまく調和させて、発足したばかりの多目的互助組合を軌道に乗せること。——等をその条件として考えています。

樹木の残るアトウモロックはこの早魃の中でも、作物が育っていました。サムラングにも近いうちにアグロフォレストリー事業(植林と樹間を利用した農業)を実施する予定です。

また、多目的組合運営が軌道にのるまで、これからも少しずつ組合の基金支援をしていきたいと思ひます。今後とも、活動に対する助言とご協力をお願いいたします。(山崎)